

## 書籍紹介

森 洋久 編

## 『角倉一族とその時代』

角倉研究プロジェクト（同書 p. 6, 615-7 を参照）の成果であり、26名の論考を取録している。同書は単に、商人や事業家などに限らず多様な活動を行っていた吉田・角倉一族の個々の業績を明らかにするというものではない。カバーの折り込みには「文化・技術の総体の中で近世の吉田・角倉一族の業績を俯瞰的に検討」と書かれているが、むしろ、吉田・角倉一族の多様な活動を通して当時のさまざまな文化・技術を総体的に俯瞰しようという野心的な試みであると言えよう。収録されている個々の論考は独立しているので、必要な部分を「つまみ食い」しても十分有益であろうが、通読することをおすすめしたい一冊である。

内容

- 【第一部】 吉田・角倉家の系譜
- 【第二部】 吉田家の医業
- 【第三部】 社会基盤と角倉
- 【第四部】 海外貿易と船の技術
- 【第五部】 算術
- 【第六部】 嵯峨本と古活字

(松村 紀明)

[思文閣出版、〒605-0089 京都市東山区元町 355,  
TEL. 075 (751) 1781, 2015年7月, A5判, 622  
頁, 8,800円+税]

井上幸孝・佐藤 暢 編

## 『人間と自然環境の世界誌——知の融合への試み (SI Libretto)』

専修大学で行われた公開講座・講義、研究プロジェクトを元にして、人類・文明と自然・環境との関わりをさまざまな視点から描いた新書。歴史学、地球科学、地質学、動物生理学、自然人類学、医史学、フランス文学の研究者による6つの「講」と、この6つを結びつける役割の6つの「トピック」から構成される。第5講は、感染症の流行を国際経済の展開と自然環境の歴史との交錯領域として描いている。その他の「講」「トピック」にも示唆に富む情報が含まれている。

内容

第1講 人類と自然環境のかかわりを考える  
井上幸孝・佐藤 暢

はじめに

世界史の限界と新たな挑戦  
人類史・文明史の視座と環境

自然科学からより幅広く人類の歴史を見る  
方法  
人類の歴史と環境  
学問分野の垣根を越えた「知」の統合へ向  
けて

トピック1 マヤ文明の多様性と自然環境

青山和夫

第2講 高精度環境復元の試み 五反田克也  
環境復元と地球の自然環境の変化  
古環境を復元する方法  
高精度分解能の環境復元への道  
年縞堆積物が解き明かす地球の環境変動

トピック2 人類の進化と地球環境 佐藤 暢